

Excellent Graphical Report on Regional Analysis

アナリーゼふくしま

N O . 2 4



平成 30 年 3 月

福島県企画調整部統計課

はしがき

福島県では、地域経済の分析と統計資料の高度利用及び還元を行い行政施策の推進に寄与することを目的に、高度統計分析報告書「アナリーゼふくしま」を刊行しています。

今号では、平成29年3月に公表した「平成25年福島県産業連関表（延長表）」を用いた最初の分析として、第1部「新生Jヴィレッジ復興プロジェクトがもたらす県内経済波及効果」と、第2部「観光客（ビジネス目的を含む）入込数2020年目標値（6,300万人）達成による経済波及効果」において、それぞれの経済波及効果の推計を行いました。

続いて、第3部「スカイラインチャートを利用した福島県の産業構造分析」においては、産業連関表のデータからスカイラインチャートを作成することにより、本県の産業構造を視覚化し、産業構造の変化について分析を行いました。

県では平成27年12月に「福島県復興計画（第3次）」及び「ふくしま創生総合戦略～ふくしま7つの挑戦～」を策定し、大震災からの復興と地方創生へ向けた取組みを実施しております。こうした取組みの一助となるよう、今後も多様なテーマの分析に努めてまいります。

最後に、本書の作成にあたり御協力をいただきました皆様及び貴重な資料を御提供いただきました皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。

平成30年3月

福島県企画調整部長

目次

| | |
|---|----|
| 第1部 新生 J ヴィレッジ復興プロジェクトがもたらす県内経済波及効果 | |
| 概要 | 1 |
| はじめに | 2 |
| 第1 J ヴィレッジの概要 | |
| 1 施設概要 | 3 |
| 2 株式会社 J ヴィレッジの概要 | 3 |
| 3 事業経過 | 4 |
| 4 利用実績 | 4 |
| 5 J ヴィレッジの利用者数 | 5 |
| 6 J ヴィレッジのレイアウトイメージ | 6 |
| 第2 J ヴィレッジの復興・再整備による経済波及効果の推計 | 8 |
| 1-1 建設関連費の最終需要額(生産者価格)の推計 | 13 |
| 1-2 建設関連費による経済波及効果の推計 | 15 |
| 1-3 建設関連費による産業部門別の経済波及効果 | 17 |
| 1-4 建設関連費による産業部門別の雇用誘発者数 | 19 |
| 2-1 施設利用者60万人達成時の最終需要額(生産者価格)の推計 | 20 |
| 2-2 施設利用者60万人の旅行消費による経済波及効果の推計 | 27 |
| 2-3 施設利用者60万人の旅行消費による産業部門別の経済波及効果 | 29 |
| 2-4 施設利用者60万人の旅行消費による産業部門別の雇用誘発者数 | 31 |
| おわりに | 32 |
| 第2部 観光客(ビジネス目的を含む)入込数2020年目標値(6,300万人)達成による経済波及効果 | |
| 概要 | 33 |
| 第1 東日本大震災以降の観光客入込数(延べ数)について | |
| 1 観光客入込数(延べ数) | 34 |
| 2 観光圏域別の動向 | 35 |
| 3 観光種目別の動向 | 36 |
| 第2 2020年目標値達成時の旅行・観光消費がもたらす県内への経済波及効果 | |
| 1 経済波及効果の推計の流れ及び前提となる条件等 | 37 |
| 2 観光客入込数(実数)及び消費額 | 40 |
| 3 経済波及効果の推計 | 48 |
| 4 まとめ | 53 |

| | |
|---|----|
| 第3部 スカイラインチャートを利用した福島県の産業構造分析 | |
| 概要 | 54 |
| はじめに | 56 |
| 本稿における分析の条件等について | 57 |
| 第1 13部門表からみた産業構造 | |
| 1 平成17年～平成25年福島県産業連関表13部門表スカイラインチャート | 58 |
| 2 生産額比率の変化 | 59 |
| 3 自給率の変化 | 61 |
| 4 県内生産額と県際収支の変化 | 64 |
| 第2 39部門表(製造業)からみた産業構造 | |
| 1 39部門表(製造業)の分析における留意事項等 | 68 |
| 2 平成17年～平成25年福島県産業連関表39部門表(製造業)スカイラインチャート | 69 |
| 3 生産額比率の変化 | 70 |
| 4 自給率の変化 | 71 |
| 5 県内生産額と県際収支の変化 | 72 |
| 6 全国との比較 | 76 |
| おわりに | 80 |